

フォルマント兄弟 (the Formant Brothers)」は、三輪眞弘(兄)と佐近田展康(弟)という父親違いの異母兄弟によって 2000 年に結成された作曲・思索のユニット。テクノロジーと芸術の今日の問題を《声》を機軸にしながら哲学的、美学的、音楽的、技術的に探求し、21 世紀の《歌》を機械に歌わせることを目指す。

フォルマント兄弟がこれまで発表したおもな作品には次のものがある。人工音声の連弾演奏で宅配ピザを注文するパフォーマンス「兄弟 de ピザ注文」(2003)。“録楽”と名付けた音楽の在り方を考察し亡きロックスターに日本語で革命歌インターナショナルを歌わせる「フレディの墓／インターナショナル」(2009、Prix Ars Electronica 2009 入賞／オーストリア)。兄弟式日本語鍵盤音素変換標準規格により MIDI 鍵盤でマイクロトナルなコブシを歌わせる「NEO 都々逸——六編」(2009)。“高音キン”なる声キャラクターを設定し東北地方の民謡に取材したレゲエ風ダンス音楽「せんだいドドンパ節」(2010)。MIDI アコーディオンをインターフェイスにし蛇腹の表現力で切々と歌い上げるムード演歌「夢のワルツ」(2012)。兄弟式国際ボタン音素変換標準規格によりラテン語の“祈り”の歌唱に挑戦した「PR(L)AYING VOICE / STABAT MATER」(2015)。言語の乗り物ではない声——呼吸／あえぎ声を作品化した「8 スピーカーのための“ヴォカリーズ”」(2018)。霊界からの声の受信装置「霊界ラヂオ」(2020)など。

また作品と一体となったテクノロジー論／メディア芸術論の言説でも注目を集め、声・機械・身体・メディアの亡霊性をめぐる議論をインスタレーション形式で展示した「フォルマント兄弟のお化け屋敷」(ICC インターコミュニケーション・センター、2010)をはじめ、レクチャー・パフォーマンス、ビデオ・プレゼンテーション等さまざまな形式で発表するとともに、東京藝術大学、ロンドン・グリニッジ大学、東京大学、日本記号学会などで講演発表・シンポジウム登壇等を行う。三輪眞弘監修／岡田暁生編『配信芸術論』(アルテスパブリッシング、2023)ではそれぞれ個人名で論考を寄せている。